

令和2年1月9日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

ただいまから、市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内しましたが、本日もライブで配信しておりますので、よろしくお願いいたします。本日の話題は 1 件です。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。年末年始、皆さん、少しはゆっくりできましたか。ずいぶんニュースが相次いでいたので、そんなにゆっくりできなかったかもしれませんが、心機一転、どうぞ今年もそれぞれの立場で精一杯頑張っていきましょう。よろしくお願いいたします。

その中で6日(注:7日)にリリースさせていただきましたが、駿府城公園の発掘調査の最終年度で大発見がありました。小天守の遺構が見つかりました。これは、私も本当に驚きました。第3次総合計画の冊子に、私、ないものねだりでなく、あるものさがしをしようと呼びかけをしているんですね。ディズニーランドは静岡にないかもしれないけれども静岡には、自然資源にしても、歴史資源にしても、たくさんものがあるじゃないかと。この地域資源にもっと着目して、発掘して、そして磨き上げていこうと、そうしたら求心力のある静岡市になっていくよ、という呼びかけだったわけですが、まさにそのシンボルが今回の発見だったんだろうなというふうに思っています。

昨日、一昨日ぐらいの新聞を拝見すると、ずいぶん全国版にも記事になっているようですし、なんてって歴史学会、日本の城郭史を研究している専門家の間で大きく…。記者へのリリースは6日でなく、7日だった、ごめんなさい。7日だそうですけども、日本の城郭史の専門家の間でも非常に沸き立っていると言いますか、論争が巻き起こる、そんなきっかけになっているということでもあります。ですので、本当に、特に全国紙の皆さんなんかはそれぞれの切り口で情報発信をさせていただいて、また大きな話題に取り上げていただけたら、たいへん嬉しいなというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

読者の方々、視聴者の方々がね、専門的なことだけに難しいんですけども、関心を持ってもらうようなそんな報道をしていただければ、たいへんうれしいなというふうに思います。

19日に報告会を行います。私ももちろん出席をするわけですが、このような機会を通して天守台跡地の活用について、静岡市民の皆さんにも関心を持っていただければうれしいなというふうに思っております。

ということで、今日の話題は幼児の言語教室がそれぞれの区に2カ所ずつできるという、最後の一点、整備をしたという話題であります。静岡市駿河区の市立川原小学校に、新たに市内6カ所目となる幼児言語教室を開設いたします。で、子どもを育てて、子育てをしていけば分かると思いますが、特にお母さん方は自分の産んだ子ですからね、赤ちゃんの頃、小さい頃こうだったよな、赤ち

やんの表情一つ、顔色一つで熱があるんじゃないかとか、何か体調悪いんじゃないかとか、ものすごい敏感に、敏感に反応するという、その感覚というのは、ものすごい鋭いものがあるというか、気になるものですよね。ですから子どもの変調というものをすごくリアルにわかるし、心配にもなるわけですね。

例えば言葉の問題にしても、自分の子どもは他の子に比べて言葉が遅れてないかどうかということは、ものすごく気になることであります。そういったお母さん方の切実な声を受けて、今回、川原小学校に教室を設けたわけでもあります。小さなお子さんの中には話し方や吃音など、友達と一緒に勉強したり、遊んだりということも億劫になってしまうというような事例もあります。この教室ではそんなお子さんたちに自信を持ってもらう、上手な話し方を身につけたり、同じような特性の子どもたちと一緒に学ぶことによって、生き生きと普段の生活を送ることができるようになればいいなというふうに思いますし、ご家族にとっても、お子さんの成長を促すきっかけとして福音になろうかというふうに思っております。

この幼児言語教室には、こども園で自分の子どもと他の子どもとの違いに不安を覚えたお母さんなど、お母さんたちが保育士さんから紹介を受け、不安な顔でご相談にいらっしゃってきていますが、この教室に通い続けることによって自信を持って話すことができるようになったお子さんや、この教室で成長し元気に小学校に通うお子さんの姿を見たご家族からは、これまでも大きな喜びの声が寄せられております。駿河区内にはこの教室が、従前、一箇所しかなく、教室に通い始めるまでに待機をしてもらうということがありましたけれども、今回、すぐにサービスを受けることができるようになります。言語教室を所管する特別支援教育センターの職員が検討を重ねた結果、川原小学校に開設をすることといたしました。

追い風がありまして、今年度、市長部局と行っている総合教育会議でも特別支援教育をメインテーマにしておりますので、このこともSDGsの理念では誰一人取り残さないということを掲げて、子どもの教育の質を上げようということをやっている。そんなことも今年度の特別支援教育を取り上げた背景でありますので、今年度中に、これが間に合ってよかったなと思っております。

お子さんの話し方に不安を感じていらっしゃるご両親、ご家族、うちの子は成長が遅いのではないかと心配をしている方には、ぜひ、積極的にご活用いただきたいと思っておりますので、皆さまにも、ぜひ、この取り組みについての取材をお願いいたします。私からは以上です。

【司会】

それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思っておりますが、その際は社名と名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、引き続き、幹事社質問に移りたいと思っておりますので、幹事社さんよろしく願いたします。

【日本経済新聞】

日経新聞です。

【市長】

おめでとうございます。

【日本経済新聞】

明けましておめでとうございます。よろしくお願いします。

昨年はSDGsやMaaSの推進、それから市役所機能充実をされましたけれども、一方で、リニア中央新幹線の未着工や桜えびの不漁、それから清水区の庁舎、病院移転問題など、年をまたいだ問題もあります。そこで、こうしたことも踏まえて、今年の市長の抱負をお願いします。

【市長】

そうですね、メディアでもSDGsを取り上げてくださることが最近多くなってきましたし、私もバッジを、今日、つけてまいりましたけれども、ずいぶんね、スーツに、このバッジをつけている市民の方々も多くなったなと実感をしております。ですので、今年の抱負からするとSDGsという 2030 年の国際目標と結び付けた静岡市のまちづくりをより一層強力に取り組んでいきたい、推進をしていきたいというふうに思っております。

で、ご承知のとおりSDGsというのはチャリティでも、ボランティアでもなくて、これから 10 年間ですね、2030 年まで 10 年間に国際社会のルールが変わっていくよと、だから、このルールの変更に対応した取り組み、これは自治体の経営も企業の経営も国家の経営もしていけないと、時代に遅れちゃうよという一つの方向性なわけですね。ですから、これ企業にとってはビジネスチャンスだし、自治体にとってもそういう先見性を持った取り組みをしていけないと、求心力の強い、そういう都市にはならないというリアルな問題意識のもとで、静岡市はSDGsと結びつけたまちづくりをしています。その中で、まさに成人式の日から、3日の日から今月の 26 日まで、SDGs月間、SDGs Monthを展開しているわけです。

そんな中で、例えば、目標5のジェンダーイコールティという点では女性がもっともっと活躍できる都市環境を、静岡市、作っていくんだと、さっきの言語教室もそうですけど、子育てしやすいまちを作っていくんだと、そういう情報発信をすることによって女性の方々が、ここに就職をしてもらい、ここで子育てをしてもらいというようなことが、都市の求心力に、先見性を持っていけば、すごく大事なことだということで、意識的にそこに重点配分をして子育てしやすいまちということをアピールしていくであとか、自治体だとそういうことがあるわけですし、また、国家経営だって同じだと思いますね。

小泉進次郎環境大臣が化石賞なんていうものをもらっちゃいましたけれども、もう石炭火力発電プラントの建設に融資をする金融機関は格付けが下がってしまうというように、これからますますルール変更をしてしまっている中で、エネルギー政策というものもアップ トウ デート、SDGsの考え方の中で議論をしていかなければいけない。だから、そんな意味でね、国際社会のルール変更に伴って、我々もまちづくりをしていくということに取り組んでいきたいと思います。

ただし、やっぱりこれって 10 年先の話で、3ステップで考えているんですけども、認知・理解・行

動、まずは認知してもらおう、このバッジ、綺麗で良いよねってファッションで終わってしまっただけはないんで、これを理解してもらおうと、今、私の説明したようなことからリアリティを持ってやっていくんだという理解がないと、次の行動に結びつかないわけですよ。そういう点では、認知度は静岡市の場合上がっているけども、さらにそれを理解を深める、そして、行動に移すというきっかけとして、今月SDGs月間をやっていて、市民の皆さん、市長1人が旗振ったって、これしようがないわけで、市民の皆さんにもこのことについて理解を促し、そして行動してもらおうことによってSDGsに積極的に取り組むまち静岡市ということをアピールしていきたいなというふうに思っています。

そういうためには情報発信力の強化ということもすごく必要だと思うんですね。今の生活にやっぱり精一杯だという市民の皆さんからすると、SDGsって何のことと、雲をつかむような話であまりリアリティがないと思っていられちゃう方もたくさんいらっしゃると思うんですね。そういう方々に伝えていくというのは本当に難しいことですので、ぜひね、丁寧に根気よく、何回も何回も繰り返し伝えていきたいな、情報発信力の強化にも取り組んでいきたいなというふうに思っております。いずれにしても、合併して10数年、城下町として発展してきた旧静岡市と、港町から発展してきた旧清水市、もう、清水だ静岡だと言っている場合じゃないと。この2つのまちの特性を、1+1が3にも5にもなって、そして世界に挑んでいくんだと。世界に輝く静岡市を作っていくんだと。そんな市長の思いのもと、まちづくりに取り組んでいきたい。それが私の抱負であります。

【日本経済新聞】

ありがとうございます。

【司会】

よろしいですか、はい、ありがとうございました。

幹事社質問は以上となります。それでは、各社さんから、ご質問をお受けしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビです。前回の会見にもありましたが、現在、民間アリーナの誘致について、東静岡駅の北口が候補地になっていると思うんですが、仮に東静岡駅北口に設置する場合のメリットをお聞きしたいというのと、あと一方、南口のほうでは県が文化力の拠点を計画していますけれども、年末の知事の発言等もあって、その計画が滞っていると思うんですが、それについてはどうお考えでしょうか。

【市長】

まずメリットは駅直結だということであります。これまでさまざまな調査をする中で、アリーナ、どこが一番、公共性と事業性が確保できるのかという観点から議論を進めてきました。その結果、やはり事業性を考えると、駅に直結という東静岡駅の北口というのは優位性があるというふうに思っており

ますので、そこが最大のメリットだと思っております。

そして、2つ目の質問ですけども、本当に東静岡駅南北一体の整備が大事だろうというふうに思っておりますので、市の職員、県の職員が連携をしてね、スポーツも含めた文化力のある拠点にしていく。そして、求心力を高めていくということはすごく大事だというふうに思っています。以上です。

【静岡朝日テレビ】

現在の進捗について、南口の方は計画が滞っているような状態だと思うんですけども、それについてはいかがでしょうか。

【市長】

民間の施設を誘致するというのは、やはり将来の事業性を担保する環境を作らなければいけないのでね、そういう意味では県の今後の取り組みに注目をしています。

【静岡朝日テレビ】

最後に知事の発言について、何か思うところはありましたでしょうか。

【市長】

いろいろ発言されていますよね。これはもう昨年、何回もこの場所で申し上げていますけれども、県知事という職責の重さから節度のある発言を心がけていただきたいなというふうに思います。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

NHKさん。

【NHK】

NHKです。今年もよろしくお願いします。前回の会見の続きになりますが、去年、公務災害認定された市職員の方についてです。ご遺族の方がですね、先月、市長の名前で出された回答書と前回の市長の記者会見の発言、ご覧になっていまして、お言葉をおっしゃっていますのでお伝えします。「市の回答がショックだった、理解できない。堅実に仕事をしてきたのに、異動したばかりの職場の環境の中で疲れきってしまい、自死してしまったことを、命がなくなったことに対して言い方が軽いんじゃないか、向き合ってもらえていない。認識を改めてほしい。裁判を起こすことにしたので、本人が苦労して大変な思いでいたことを認めてほしい」。このようにおっしゃっています。

市長、何か、反論ですとか主張されたいこと、理解を求めたいことがありましたら、お聞かせください。

【市長】

公務災害の認定をされたという事実については、今もたいへん重く受け止めております。

【NHK】

真摯に向き合っていないというご遺族の受け止めについては、どうお考えでしょうか。

【市長】

私は向き合っているつもりだと思っています。

【NHK】

訴訟を起こされるということですが、何か市としてご遺族の見解に対して主張されたいことありましたら……

【市長】

私の手元にまだ訴状が届いておりませんので、その詳細については分かりませんが、改めてご遺族の皆さまに、亡くなられた職員のご冥福をお祈り申し上げ、お悔やみを申し上げたいと思います。

【NHK】

わかりました。もう一つ。これ、私からの疑問ですが、前回の会見で、市長、正確な情報をご承知でなかったようですので、もう1回、伺いますが、公務災害の認定通知の中で、市長のお名前で、「異常ともいえる職場環境の中で繰り返して行われた叱責や罵倒は精神疾患を発症させる程度の強度な精神的負荷であった」という、この審査会の裁決文を受け入れておきながら、市長、前回の会見で、一概には異常な職場環境とは言えないのではないかというの見解であるとおっしゃった。同じ市長の名前で出された文書に対して、それを文書上は否定をしておらず、受け入れて公務災害として認定したのに、ご発言としては一概には言えないと否定するという、公文書の信頼性にも関わってくると思いますが、どう理解すればよろしいのでしょうか。

【市長】

公文書の信頼性は担保した上で、今日、正しく申し上げるならば先ほど申し上げましたとおり、その文書を重く受け止めて、今後につなげていきたいというふうに思っております。

【NHK】

わかりました。最後に、パワハラでないという市の主張はひとまず伺いましたけれども、ではなぜ職員の方は自殺なさったと捉えていらっしゃるのか、何か反省や教訓とするべきところは何もないのか、お聞かせください。

【市長】

それは、いろいろ私自身が、これから考えていきたいことだというふうに、重く受け止めております。

【NHK】

5年経ってまだ何が反省点なのか、何が教訓なのか考えられていないということでしょうか。

【市長】

そういうことではございません。

【NHK】

おっしゃれることはないと…

【市長】

いろんな事例がありますのでね、とにかくハラスメント事例というのは、この頃いろんな場面で使われております。カスハラなんていう言葉も、この頃、あるみたいですよ。すごく難しい。時代背景の違いによって、ハラスメントの受け止め方も違う時代になっていると思います。ですので、このところはやっぱり慎重に言葉を選んでいかなきゃいけないというふうに思いますので、今後、これを一つの自戒にしていきたいと思っています。

【NHK】

一つの…

【市長】

自戒にしていきたいと思っています。

【NHK】

自ら戒めるの自戒ですね。わかりました。ありがとうございます。

【司会】

他、ございませんか。先にすいません。静岡第一テレビさん。

【静岡第一テレビ】

すいません。今年初めての市長会見だと思うんですけど、この1年で静岡市が抱える一番の課題は何で、どのようにそれについて取り組んでいきたいかと。お願いします。

【市長】

やはり3次総をきちっと進めていくこと、そして市民の安心・安全の期待に応えていくこと。このことを一番の課題だと受け止めています。

【静岡第一テレビ】

ありがとうございます。何か個別の事業についてはありますでしょうか、先ほどのアリーナの件であったりとか、何かありますでしょうか。

【市長】

もう少し具体的に申し上げますと、市民のニーズとして、例えば子育てしやすいまちにしていかなきゃいけないということでは児童クラブの待機児童ゼロということも一つの課題であります。あるいは5大構想の海洋文化の拠点づくりという点では、去年、議決をいただいた庁舎の問題を丁寧に説明を重ねながら前に進めていくということも課題だろうと思っています。

【静岡第一テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

朝日新聞さん、よろしいですか。

【朝日新聞】

先ほどのNHKさんの質問に関する事なんですけれども、朝日新聞です。

公務災害認定をたいへん重く受け止めているということと、一概には異常な職場環境とは言えないということは明らかに矛盾する発言なので、どちらかしか取りようがないと思うんですね。それをどちらともというようなご回答は、やはり公文書の信頼性に関わってくる問題だと思うのですが、一概には異常な職場環境とは言えないというご自身の認識を覆すつもりはないということなんですか。

【市長】

ようこそ市政クラブへお越しいただきました。今年の会見も記者、いらっしゃいましたか。

【朝日新聞】

いや、このやりとりは知っています。

【市長】

うん。NHK記者とのね、少し個人的なやりとりだったということは、私は、すごく反省をしております。ですので、そういうことからすると公務災害の認定を受けたというのは公文書、それを私は優先をし

たいと思うし、そういうことだと受け取っていただきたいと思います。

【朝日新聞】

わかりました。

【司会】

よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

新年最初の定例記者会見でしたが、本日は以上で終了させていただきます。次回は、今月 23 日、木曜日、午前 11 時からとなりますのでよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。